

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成 28 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：介護予防のための住民参加型の口腔機能向上事業 ～口腔機能の減退への気づきと支援～ 高齢者が高齢者を支える活動を通して</p>
<p>2. 申請者名：公益財団法人ライオン歯科衛生研究所</p>
<p>3. 実施組織：公益財団法人ライオン歯科衛生研究所、一般社団法人沖縄県歯科医師会 宮古島市福祉部</p>
<p>4. 事業の概要： 日本は高齢化が進展する中、フレイル・介護予防や認知症予防が国民的な課題である。そこで、弊所では 2009 年より高齢者が口腔機能の低下に気づき、改善につなげるための口腔機能向上システムを開発し、介護予防につながることを貴財団に報告した。さらに、2013 年より沖縄県宮古島市の住民を対象に、本システムが認知機能低下抑制に貢献できることを確認した。その後、調査に協力いただき伊良部島(宮古島市)より、本システムを住民が住民に広げる活動として実施したいとの希望が出た。そこで昨年は、住民の代表者(推進員)が住民に広げるための手帳を作成・5 カ月間の活動効果を評価し、口腔機能が向上することを確認した。今回は、伊良部島での本事業の長期効果を調査した結果、口腔機能を高めるための習慣が定着していた。さらに、宮古島全体へ本事業を広げるためのツールとして簡便な小冊子を開発、「お口元気活動」の効果を評価した結果、数カ月間で口腔機能が高まることが示された。</p>
<p>5. 事業の内容： 1) 住民参加型の口腔機能向上システムの長期の効果把握 昨年、伊良部島に在住する高齢者 68 名を対象に 15 名の推進員がお口元気活動を 5 カ月間実施、フェスティバルにてその効果を報告した。今年度は、本活動がフェスティバルに向けたイベント的な活動として終息してしまったのか否かを確認するために追加調査を行った。 2) 宮古島市全体への本事業の拡充 高齢者が口腔機能低下に気づき、口腔機能を高めることのできる小冊子を開発、宮古島市全体から推進員を募集(11 名)、小冊子を活用して「お口元気活動」を高齢者 214 名に実践し、数カ月後の評価が可能であった高齢者 147 名の「お口元気活動」の効果を検討した。</p>
<p>6. 事業後の評価(今後の課題)： 伊良部島からスタートした住民参加型の活動は、長期の調査結果から口腔機能を高める習慣が生活の中で定着していた。 そこで、宮古島全体へ広げるための小冊子を開発・評価した結果、本事業に参加した高齢者 147 名の口腔機能が高まった。しかし、男性の参加者が少ないこと、今回は特定の推進員の努力により事業が行われていたこと等への対策が課題となった。一方で、介護保険料のワースト順位が改善してきていることから、引き続き、本活動が宮古島におけるフレイル・介護予防等に貢献できるか否かを検討する予定である。</p>